

早生モモにおける好適生育基準の指標化

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部

研究のねらい

モモにおいては、主産地の生育基準を基に管理技術の組立が行われているが、温暖多雨という特異な九州の環境条件下では夏季せん定などによる過繁茂防止対策が重要な技術となっている。

そこで、八幡白鳳を用い、好適生育相に近づけるための管理技術の確立のため、例年収量が多く、高品質の果実を生産する高位生産樹の生育段階別(満開後30、60日目)生育相を、低位生産樹と比較しながら、数値化した。

研究の成果

1. 目標とする収量と果実品質

- (1) 目標収量は、10a 当たり2.0 ~ 2.5t (10,000 ~ 12,500 果/10a)としたが、本県の優良園では2t程度のものが多かった。
- (2) 目標収量に達し、平均1果重が200g以上、糖度が10%以上の樹を優良樹とした。

2. 満開後30日目の好適樹相

- (1) 不着果節位の短果枝葉の大きさは22 ~ 25c m² (縦径10.5 ~ 11.0 cm、横径3.0 ~ 3.5 cm)、葉色(ミルタ葉緑素計によるグリーンメーター値)は37程度が適当である。
- (2) 側枝先端の新梢長は5 ~ 10 cmが適当であり、果実の横径は22 mm以上、縦径は30 mm以上を目標とする。

3. 満開後60日目の好適樹相

- (1) 不着果節位の短果枝葉の葉色は、44 ~ 46 が適当であり、これより値が小さければチッソ不足と考えられる。
- (2) 側枝先端の新梢の長さは20 cm程度、この伸長停止率は70 ~ 80 %が適当である。
- (3) 果実の横径は49 mm以上、縦径は54 mm以上を目標とする。
- (4) 葉面積指数(LAI)は、2.5 ~ 3.0 が適当で、これより大きい場合は枝抜きを行う。

表 1 好適生育基準の指標化（モモ：八幡白鳳）

時期	項目	生育基準	備考
満開後 30日	葉の大きさ	22～25cm ² (縦10.5～11cm、 横3.0～3.5cm)	不着果節位の短果枝葉。小さければ樹勢が弱い。
	葉色	37	同上。グリーンメーター値。小さければN不足。
	側枝先端の新梢長	5～10cm	短ければ樹勢弱い。
	果実横径	22mm以上	小さいもの及び変形果は摘果する。
	果実縦径	30mm以上	同上。
満開後 60日	葉色	44～46	グリーンメーター値。小さければN不足。
	新梢長	20cm	側枝先端の新梢。短ければ樹勢が弱い。
	新梢伸長停止率	70～80%	同上。
	果実横径	49mm以上	小さいもの及び変形果は摘果する。
	果実縦径	54mm以上	同上。
L A I	2.5～3.0	徒長枝整理後。この時期の総合的判断指標で、大きければ過繁茂なので、さらに枝抜きが必要。	

注) 6～13年生を対象とする。



写真1 満開後30日目の好適樹相



写真2 満開後60日目の好適樹相